

柔道整復学科（3年生）

専門課程（医療分野）

教育課程及び授業時数										
区 分		科 目		規定 単位	計 画 単位(時間)	1学年 単位(時間)	2学年 単位(時間)	3学年 単位(時間)	実務	
基礎 分野	科学的思考の基盤 人間と生活	医 療 心 理 学		14	2 (30)	2 (30)				
		情 報 科 学 概 論			2 (30)	2 (30)				
		医 療 英 語			4 (60)	4 (60)				
		保 健 体 育			2 (60)	2 (60)				
		経 営 学 概 論			4 (60)	4 (60)				
	小 計			14	14 (240)	14 (240)				
専門 基礎 分野	人 体 の 構 造 と 機 能	解 剖 学	I	15	4 (60)	4 (60)			○	
			II		4 (60)	4 (60)				
			III		4 (60)	4 (60)				
		生 理 学 * Ⅰ	I		4 (60)		4 (60)			
			II		4 (60)		4 (60)			
		運 動 学	I		4 (60)	4 (60)				○
			II		2 (30)		2 (30)			
		疾 病 と 障 害	病 理 学		11	2 (60)		2 (60)		
	一 般 臨 床 医 学		2 (60)			2 (60)				
	外 科 学 概 論		2 (60)			2 (60)				
	整 形 外 科 学		1 (30)				1 (30)			
	リハビリテーション医学		2 (60)			2 (60)				
	衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学		2 (60)	2 (60)						
	柔 道 整 復 術 の 適 応			2	2 (30)			2 (30)		
	保 健 医 療 福 祉 と 柔 道 整 復 の 理 念	関 係 法 規 * 2		8	6 (90)			6 (90)	○	
		保 健 医 療 * 3			1 (15)			1 (15)	○	
柔 道		I	2 (60)		2 (60)			○		
		II	2 (60)			2 (60)		○		
社 会 保 障 制 度				1	1 (15)			1 (15)		
小 計				37	51 (990)	20 (360)	20 (450)	11 (180)		
専門 分野	基 礎 柔 道 整 復 学	柔道整復学総論	I * 4	10	6 (180)	6 (180)			○	
			II		4 (120)			4 (120)	○	
	臨 床 柔 道 整 復 学 * 5	臨床柔道整復学	I	17	4 (120)		4 (120)		○	
			II		2 (60)		2 (60)		○	
			III		2 (60)		2 (60)		○	
			IV		12 (360)			12 (360)		
	柔 道 整 復 実 技	包 帯 実 技		17	3 (90)	3 (90)			○	
		柔道整復実技	I * 6		2 (60)	2 (60)			○	
			II		4 (120)	4 (120)			○	
			III		4 (120)		4 (120)		○	
柔道整復臨床実技 * 7			4 (120)				4 (120)	○		
臨 床 実 習				4	4 (180)		3 (135)	1 (45)	○	
小 計				48	51 (1590)	15 (450)	15 (495)	21 (645)		
合 計				99	116 (2820)	49 (1050)	35 (945)	32 (825)		

*1 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化を含む

*2 職業倫理を含む

*3 医学史を含む

*4 外傷の保存療法の経過及び治癒の判定を含む

*5 物理療法機器等の取扱い・柔道整復術の適応の臨床的判断（医用画像の理解を含む）を含む

*6 臨床前試験を含む

*7 高齢者・競技者の外傷予防技術を含む

【指定規則に定める授業科目以外の履修科目】

【指定規則に定める授業科目以外の履修科目】							
分野・区分	科目	規定 単位	計 画 単位（時間）	1学年 単位（時間）	2学年 単位（時間）	3学年 単位（時間）	
メディカルトレーナー	メディカルトレーナー概論	—	1（15）	1（15）			
	メディカルトレーナー実技						
ハイボルテージ療法			1（15）	1（15）			
キネシオテーピング技法			1（15）	1（15）			
フィジカルトレーナー	フィジカルトレーナー概論		1（15）	1（15）			
	フィジカルトレーナー実技						
アロマセラピー	アロマセラピー概論		2（30）	2（30）			
	アロマセラピー実技						
小 計			6（90）	6（90）			

科目名： 整形外科（前期）

授業形態：講義

担当教員：二宮 宏二
1単位

【授業概要】 運動器の治療を行う職種として整形外科全般についての基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】 整形外科の理念と実際を理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	整形外科とは	二宮
2	1章 運動器の基礎知識	二宮
3	2章 整形外科診察法	二宮
4	3章 整形外科検査法	二宮
5	4章 整形外科的治療法	二宮
6	5章 骨・関節損傷総論	二宮
7	6章 スポーツ整形外科総論	二宮
8	7章 リハビリテーション総論	二宮
9	8章 疾患別各論：A感染性疾患 B骨および軟部腫瘍	二宮
10	8章 疾患別各論：C非感染性軟部・骨関節疾患 D全身の骨・軟部疾患	二宮
11	8章 疾患別各論：E骨端症 F四肢循環障害 G神経・筋疾患	二宮
12	9章 身体部位別各論：A体幹	二宮
13	9章 身体部位別各論：B肩甲帯及び上肢の疾患	二宮
14	9章 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患	二宮
15	まとめ	二宮
16	定期試験	二宮

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「整形外科」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 柔道整復術の適応（後期）

授業形態：講義

担当教員：二宮 宏二
2単位

【授業概要】 医療の中の柔道整復術の適応を学ぶ。

【到達目標】 医療の中で柔道整復師の役割を理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	1章 柔道整復術の適否を考える	二宮
2	2章 損傷に類似した症状を示す疾患 A内臓疾患の投影を疑う疼痛	二宮
3	2章 損傷に類似した症状を示す疾患 B腰痛を伴う疾患	二宮
4	2章 損傷に類似した症状を示す疾患 C化膿性の炎症など	二宮
5	3章 血流障害を伴う損傷	二宮
6	4章 末梢神経損傷を伴う損傷	二宮
7	5章 脱臼骨折	二宮
8	6章 外出血を伴う損傷	二宮
9	7章 病的骨折および脱臼	二宮
10	8章 意識障害を伴う損傷	二宮
11	9章 脊髄症状のある損傷	二宮
12	10章 呼吸運動障害を伴う損傷	二宮
13	11章 内臓損傷の合併が疑われる損傷	二宮
14	12章 高エネルギー外傷	二宮
15	まとめ	二宮
16	定期試験	二宮

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「医療の中の柔道整復」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 関係法規（前期）

授業形態：講義・演習

担当教員：中村 大隆
通年6単位

【授業概要】 柔道整復師も社会の構成員であるから、さまざまな法律により律せられている。
特に柔道整復師・柔道整復に関する法規を学ぶ、その法的な背景と社会における位置を学習する。

【到達目標】 法を通して、柔道整復とは何かを考える力を養う。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	序論 柔道整復師法とその関係内容「第1章 総則」	中村
2	序論 柔道整復師法とその関係内容「第1章 総則」	中村
3	柔道整復師法とその関係内容「第2章 免許」	中村
4	柔道整復師法とその関係内容「第2章 免許」	中村
5	柔道整復師法とその関係内容「第2章 免許」	中村
6	柔道整復師法とその関係内容「第2章 免許」	中村
7	柔道整復師法とその関係内容「第3章 柔道整復師試験」	中村
8	柔道整復師法とその関係内容「第3章 柔道整復師試験」	中村
9	柔道整復師法とその関係内容「第4章 業務」	中村
10	柔道整復師法とその関係内容「第4章 業務」	中村
11	柔道整復師法とその関係内容「第5章 施術所」	中村
12	柔道整復師法とその関係内容「第5章 施術所」	中村
13	柔道整復師法とその関係内容「第6章 雑則」	中村
14	柔道整復師法とその関係内容「第6章 雑則」	中村
15	柔道整復師法とその関係内容「第7章 罰則」	中村
16	柔道整復師法とその関係内容「第7章 罰則」	中村
17	柔道整復師法とその関係内容「第8章 指定登録機関～」	中村
18	柔道整復師法とその関係内容「第8章 指定登録機関～」	中村
19	関係法規 A 医療従事者の身分関係法 B 医療法 C 薬事法規 ～F.etc	中村
20	関係法規 A 医療従事者の身分関係法 B 医療法 C 薬事法規 ～F.etc	中村
21	社会保険関係法規	中村
22	社会保険関係法規	中村
23	柔道整復師法・柔道整復師法施行令・柔道整復師法施行規則～	中村
24	職業倫理1	中村
25	職業倫理2	中村
26	職業倫理3	中村
27	職業倫理4	中村
28	職業倫理5	中村
29	まとめ	中村
30	まとめ	中村
31	定期試験	中村

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約1時間）
復習：授業内容を教科書・資料などを見直ししながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。（約1時間）

【教科書名】 「関係法規」（医歯薬出版）
「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」（医歯薬出版）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 関係法規（後期）

授業形態：講義・演習

担当教員：中村 大隆

【授業概要】 前期の知識を活かし、演習問題を交えながら復習を行い更に高度な学力をつける。

【到達目標】 法を通して、柔道整復とは何かを考える力を養う。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	序論 柔道整復師法とその関係内容「第1章 総則」復習	中村
2	柔道整復師法とその関係内容「第2章 免許」復習	中村
3	柔道整復師法とその関係内容「第2章 免許」復習	中村
4	柔道整復師法とその関係内容「第3章 柔道整復師試験」復習	中村
5	柔道整復師法とその関係内容「第4章 業務」復習	中村
6	柔道整復師法とその関係内容「第5章 施術所」復習	中村
7	柔道整復師法とその関係内容「第6章 雑則」復習	中村
8	柔道整復師法とその関係内容「第7章 罰則」復習	中村
9	柔道整復師法とその関係内容「第8章 指定登録機関～」復習	中村
10	関係法規 A 医療従事者の身分関係法 B 医療法 C 薬事法規 ～F.etc 復習	中村
11	社会保険関係法規 復習	中村
12	柔道整復師法・柔道整復師法施行令・柔道整復師法施行規則～復習	中村
13	柔道整復師法・柔道整復師法施行令・柔道整復師法施行規則～復習	中村
14	柔道整復師法・柔道整復師法施行令・柔道整復師法施行規則～復習	中村
15	まとめ	中村
16	定期試験	中村

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約1時間）
復習：授業内容を教科書・資料などを見直ししながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。（約1時間）

【教科書名】 「関係法規」（医歯薬出版）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 保健医療（前期）

授業形態：講義

担当教員：竹山 理
1単位

【授業概要】 国民の保健医療福祉の推進のため、柔道整復師が果たすべき役割や医学史、職業倫理について学ぶ。
社会保障の仕組みを理解し、受領委任や償還払いの違い、柔道整復師法、健康保険取扱いに関する関連規定を学ぶ。
*3 医学史を含む

【到達目標】 開業可能な柔道整復師として医療費等の医療経済を含む社会保障制度を理解し、医療人としての質を高めること。
「医学史」や「職業倫理」を通し、インフォームドコンセントや患者中心の医療ができる人材として成長すること。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	社会保障制度①	竹山
2	社会保障制度②	竹山
3	社会保障制度③	竹山
4	療養費制度①	竹山
5	療養費制度②	竹山
6	医学史、職業倫理①	竹山
7	医学史、職業倫理②	竹山
8	医学史、職業倫理③	竹山
9	定期試験	竹山
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約1時間）
復習：授業内容を教科書・資料などを見直しながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。（約1時間）

【教科書名】 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」「衛生学・公衆衛生学」（南江堂）

【参考書名】 「関係法規」（医歯薬出版）「医の倫理と法」（南江堂）「医療概論」（医歯薬出版）

【評価基準】 定期試験100%

科目名: 社会保障制度(後期)

授業形態: 講義

担当教員: 重田 哲郎
1単位

【授業概要】 柔道整復師として「医療人としての質を確保」するため、医療保険制度や医療経済を学び、さらには患者への対応や社会的責任など様々なケースをあげて学習する。そして柔道整復師の療養費について支給申請がどのようなものかを学ぶ。

【到達目標】 柔道整復師の立場、患者の立場双方からのリスクのマネジメントができる人材として成長する事

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	1章 我が国の社会保障 A社会保障とは	重田
2	1章 我が国の社会保障 B社会保険制度	重田
3	1章 我が国の社会保障 C医療保険制度	重田
4	2章 柔道整復師業務における療養費 A療養費制度の概要	重田
5	2章 柔道整復師業務における療養費 B療養費請求のケーススタディ	重田
6	3章 職業倫理 A医療従事者の職業倫理 B柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応	重田
7	3章 職業倫理 C柔道整復師の社会的責任と対応	重田
8	3章 職業倫理 Dグループ・ディスカッション事例 E医療における情報と責任	重田
9	定期試験	重田
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。(約1時間)
復習:授業内容を教科書・資料などを見直ししながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。(約1時間)

【教科書名】 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」(南江堂)

【参考書名】 「医療概論」(医歯薬出版)

【評価基準】 定期試験100%

科目名: 柔道整復学総論Ⅱ(前期)

講義・演習

担当教員:

重田 哲郎

通年4単位

【授業概要】 1年次学び、習得した柔道整復学総論Ⅰに2年次に学び、習得した臨床柔道整復学ⅠⅡⅢの知識
 が加わり柔道整復学を総合的に改めて学び、演習問題を通じて知識の習得を目指す。

【到達目標】 柔道整復師国家試験は勿論だが臨床の場でも必要となる柔道整復学の総論や骨折・脱臼・軟部
 組織損傷を総合的に学び、柔道整復師として基本的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】①・演習問題①	重田
2	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】②・演習問題②	重田
3	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】③・演習問題③	重田
4	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】④・演習問題④	重田
5	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑤・演習問題⑤	重田
6	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑥・演習問題⑥	重田
7	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑦・演習問題⑦	重田
8	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑧・演習問題⑧	重田
9	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑨・演習問題⑨	重田
10	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑩・演習問題⑩	重田
11	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑪・演習問題⑪	重田
12	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑫・演習問題⑫	重田
13	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑬・演習問題⑬	重田
14	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑭・演習問題⑭	重田
15	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑮・演習問題⑮	重田
16	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑯・演習問題⑯	重田
17	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑰・演習問題⑰	重田
18	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑱・演習問題⑱	重田
19	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑲・演習問題⑲	重田
20	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑳・演習問題㉔	重田
21	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
22	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
23	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
24	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
25	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
26	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
27	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
28	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
29	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
30	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔・演習問題㉔	重田
31	定期試験	重田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に柔道整復学総論や臨床柔道整復学を予習する事。(約1時間)
 復習:演習問題で理解できなかった所を調べ明確にすること。(約1時間)

【教科書名】 「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上

科目名: 柔道整復学総論Ⅱ(後期)

講義・演習

担当教員:

重田 哲郎

【授業概要】 1年次学び、習得した柔道整復学総論Ⅰに2年次に学び、習得した臨床柔道整復学ⅠⅡⅢの知識が加わり柔道整復学を総合的に改めて学び、演習問題を通じて知識の習得を目指す。

【到達目標】 柔道整復師国家試験は勿論だが臨床の場でも必要となる柔道整復学の総論や骨折・脱臼・軟部組織損傷総合的に学び、柔道整復師として基本的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】①	重田
2	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】②	重田
3	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】③	重田
4	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】④	重田
5	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑤	重田
6	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑥	重田
7	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑦	重田
8	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑧	重田
9	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑨	重田
10	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑩	重田
11	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑪	重田
12	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑫	重田
13	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑬	重田
14	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑭	重田
15	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑮	重田
16	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑯	重田
17	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑰	重田
18	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑱	重田
19	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑲	重田
20	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】⑳	重田
21	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉑	重田
22	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉒	重田
23	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉓	重田
24	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉔	重田
25	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉕	重田
26	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉖	重田
27	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉗	重田
28	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉘	重田
29	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉙	重田
30	柔道整復学総論・各論【骨折・脱臼・軟部組織損傷】㉚	重田
31	定期試験	重田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に柔道整復学総論や臨床柔道整復学を予習する事。(約1時間)
復習:演習問題で理解できなかった所を調べ明確にすること。(約1時間)

【教科書名】 「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上

科目名: 臨床柔道整復学Ⅳ(前期) 授業形態: 講義 担当教員: 平島 尚江

通年12単位

【授業概要】 1年次・2年次で学習した専門基礎分野の「人体の構造と機能」・「疾病と障害」を単科ごとに捉えず、総合的に関連付け柔道整復学を通して臨床にどう応用するかを考察する。

【到達目標】 専門基礎分野のより深い習熟と応用力をつける事を学習目標とする。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1～6	専門基礎分野を統合・応用した臨床柔道整復学	平島
7～12	*主な概要 下記に記された項目を臨的に考察する。	平島
13～18	解剖学:運動系 神経系 感覚器 体表解剖	平島
19～24	生理学:体温調節 骨・体液の生理学 神経の機能など	平島
25～30	運動学:反射と随意運動 四肢と体幹の運動 姿勢(重心) 歩行 運動学習など	平島
31～36	一般臨床医学:診察各論 検査法(運動機能検査)など	平島
37～42	病理学:退行性病変 循環障害 進行性病変 炎症など	平島
43～48	リハ医学:リハ医学の基礎医学・評価と診断・治療・末梢神経損傷 整形外科疾患など	平島
49～54	外科学:損傷 炎症 腫瘍 ショック 輸血 手術など	平島
55～60	整形外科学:診察法 検査法 骨・関節損傷総論など	平島
61～66	関係法規:開業にむけて	平島
67～72	衛生学・公衆衛生学:感染症の予防 消毒 学校保健 など	平島
73～78	柔道整復学:総論 各論	平島
79～84	柔道整復学:総論 各論	平島
85～90	柔道整復学:総論 各論	平島
91	定期試験	平島

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。(約2時間)
復習:授業内容を教科書・資料などを見直ししながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。(約2時間)

【教科書名】 「柔道整復学 理論編 実技編」(南江堂)

【参考書名】 専門基礎分野で使用した教科書すべて

【評価基準】 定期試験(100%)

科目名: 臨床柔道整復学Ⅳ(後期) 授業形態: 講義 担当教員: 平島 尚江

【授業概要】 1年次・2年次で学習した専門基礎分野の「人体の構造と機能」・「疾病と障害」を単科ごとに捉えず、総合的に関連付け柔道整復学を通して臨床にどう応用するかを考察する。

【到達目標】 専門基礎分野のより深い習熟と応用力をつける事を学習目標とする。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1～6	専門基礎分野を統合・応用した臨床柔道整復学	平島
7～12	*主な概要 下記に記された項目を臨的に考察する。	平島
13～18	解剖学:運動系 神経系 感覚器 体表解剖	平島
19～24	生理学:体温調節 骨・体液の生理学 神経の機能など	平島
25～30	運動学:反射と随意運動 四肢と体幹の運動 姿勢(重心) 歩行 運動学習など	平島
31～36	一般臨床医学:診察各論 検査法(運動機能検査)など	平島
37～42	病理学:退行性病変 循環障害 進行性病変 炎症など	平島
43～48	リハ医学:リハ医学の基礎医学・評価と診断・治療・末梢神経損傷 整形外科疾患など	平島
49～54	外科学:損傷 炎症 腫瘍 ショック 輸血 手術など	平島
55～60	整形外科学:診察法 検査法 骨・関節損傷総論など	平島
61～66	関係法規:開業にむけて	平島
67～72	衛生学:感染症の予防 消毒 学校保健 など	平島
73～78	柔道整復学:総論 各論 物理療法と医用画像の理解含む	平島
79～84	柔道整復学:総論 各論	平島
85～90	柔道整復学:総論 各論	平島
91	定期試験	平島

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。(約2時間)
復習:授業内容を教科書・資料などを見直ししながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。(約2時間)

【教科書名】 「柔道整復学 理論編 実技編」(南江堂)

【参考書名】 専門基礎分野で使用した教科書すべて

【評価基準】 定期試験(100%)

科目名: 柔道整復臨床実技(前期)

授業形態: 実技

担当教員: 串間 翔
通年4単位

【授業概要】 1・2年次に学習してきた実技を、臨床上対応できるように学習する。患者さんを想定した練習。
認定実技試験項目の内容を理解し、習得する。

【到達目標】 臨床上役立つ知識を身に付ける。
「患者安全」のため、柔道整復施術の基礎技能を体得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	骨折分野 グループ学習	串間
2	骨折分野 グループ学習	串間
3	骨折分野 実技模試テスト	串間
4	骨折分野 実技模試テスト	串間
5	脱臼分野 グループ学習	串間
6	脱臼分野 グループ学習	串間
7	脱臼分野 実技模擬試験	串間
8	脱臼分野 実技模擬試験	串間
9	軟損分野 グループ学習	串間
10	軟損分野 グループ学習	串間
11	軟損分野 実技模擬試験	串間
12	軟損分野 実技模擬試験	串間
13	全分野 グループ学習	串間
14	全分野 グループ学習	串間
15	全分野 実技模擬試験	串間
16	全分野 実技模擬試験	串間
17	骨折分野 グループ学習	串間
18	骨折分野 グループ学習	串間
19	骨折分野 実技模試テスト	串間
20	骨折分野 実技模試テスト	串間
21	脱臼分野 グループ学習	串間
22	脱臼分野 グループ学習	串間
23	脱臼分野 実技模擬試験	串間
24	脱臼分野 実技模擬試験	串間
25	軟損分野 グループ学習	串間
26	軟損分野 グループ学習	串間
27	軟損分野 実技模擬試験	串間
28	軟損分野 実技模擬試験	串間
29	全分野 グループ学習	串間
30	全分野 グループ学習	串間
31	定期試験	串間

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する患部の症状をしっかりと読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理・理解し、繰り返し練習すること。(約1時間)

【教科書名】 「柔道整復学 理論編 実技編」(南江堂)
「柔道整復師と機能訓練指導」(南江堂)「競技者の外傷予防」(医歯薬出版)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名: 柔道整復臨床実技(後期)

授業形態: 実技

担当教員: 串間 翔

【授業概要】 1・2年次に学習してきた実技を、臨床上対応できるように学習する。患者さんを想定した練習。
認定実技試験項目の内容を理解し、習得する。

【到達目標】 臨床上役立つ知識を身に付ける。
「患者安全」のため、柔道整復施術の基礎技能を体得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	認定実技審査(形式練習)	串間
2	認定実技審査(形式練習)	串間
3	認定実技審査(形式練習)	串間
4	認定実技審査(形式練習)	串間
5	認定実技審査(形式練習)	串間
6	認定実技審査(形式練習)	串間
7	認定実技審査(形式練習)	串間
8	認定実技審査(形式練習)	串間
9	認定実技審査(形式練習)	串間
10	認定実技審査(形式練習)	串間
11	認定実技審査(形式練習)	串間
12	認定実技審査(形式練習)	串間
13	認定実技審査(形式練習)	串間
14	認定実技審査(形式練習)	串間
15	中間試験	串間
16	認定実技審査(形式練習)	串間
17	認定実技審査(形式練習)	串間
18	認定実技審査(形式練習)	串間
19	認定実技審査(形式練習)	串間
20	認定実技審査(形式練習)	串間
21	認定実技審査(形式練習)	串間
22	認定実技審査(形式練習)	串間
23	認定実技審査(形式練習)	串間
24	認定実技審査(形式練習)	串間
25	認定実技審査(形式練習)	串間
26	認定実技審査(形式練習)	串間
27	認定実技審査(形式練習)	串間
28	認定実技審査(形式練習)	串間
29	認定実技審査(形式練習)	串間
30	認定実技審査(形式練習)	串間
31	定期試験	串間

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する患部の症状をしっかりと読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理・理解し、繰り返し練習すること。(約1時間)

【教科書名】 「柔道整復学 理論編 実技編」(南江堂)
「柔道整復師と機能訓練指導」(南江堂)「競技者の外傷予防」(医歯薬出版)

【参考書名】

【評価基準】 中間試験50% 定期試験50%

科目名： 臨床実習（前期） 授業形態：実習 担当教員： 臨床実習指導者・専任教員
1単位

【授業概要】 整骨院や施設において臨床実習を行う。
【到達目標】 臨床実習を通して知識や技術、さらには施術者としての態度や患者への対応などを習得する。

【授業の進め方】

授 業 内 容	
各実習施設に45時間の臨床実習を行う。	
実習内容：	
見学型臨地実習	
柔道整復施術所あるいは医療機関とは、どのような場所なのかを理解し、	
柔道整復師としての将来を考える。	
目的：	
施術所で患者に不快感を与えない身だしなみを整える	
ふさわしい挨拶	
不快感を与えない態度や言葉使いの習得	
医学的清潔の意味の理解	
施術所の清潔保持の重要性の理解	
守秘義務の説明・遵守	
担当教育者：	
担当教員・臨床実習指導者	
臨床実習調整者：中村 大隆	

【授業外学修】 予習：実習にふさわしい身だしなみを整える。
医療面接の意義を確認し、必要な身体診察法による所見が取れるよう準備する。（30分）

復習：実習課題を記入し提出する。不明な点は質問し、解決する。（1時間）

「柔道整復学 理論編」（南江堂） 「柔道整復学 実技編」（南江堂）

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

実習時評価50% 実習課題（カルテ・デیلیーノート・症例報告）50%